



KUFS TOKYO NEWSLETTER

2009年11月9日

京都外国語大学校友会東京支部

VOL.19

トピックス

- ごあいさつ
- 大阪・京滋支部お知らせ
- 外大生・横顔シリーズ
- 海外便り
- ・「カリフォルニアの風」
- ・「フランス編」
- 校友会メンバー紹介

大阪支部、京滋支部合同

総会・懇親会開催報告

会計報告、役員承認選出

坂本会長、森田総長挨拶の後

スピーチタイム、抽選会

あっという間の懇親会でした

村松武雄副支部長より

各支部共通問題点

* 東京支部 NEWSLETTER 第19弾 *

オリオン座流星群はごらんになりましたか？

流れ星に願い事を唱えれば叶うというのは、ウラル・アルタイ系民族の古い習慣で、流れ星は神様が地上の様子を見るために「天の扉」をちょっと開いたときに洩れた光、つまり、流れ星が流れたときというのは神様が私達の方を見ている時なので、その間に願い事を言えば叶うと考えたいです。



この東京支部 NEWSLETTER は19回目となりました！
KUFS 現役生と卒業生の架け橋になることを目標に、情報交換のコミュニケーションスペースとして、ますますの充実を図ってゆきたいと思えます。まだ NEWSLETTER を受け取られていらっしゃらない方をご紹介いたしますよう、ご協力をお願いいたします。

連絡・投稿先は >>> tonegawa@gm-group2.net

校友会大阪・京滋支部総会・懇親会のご報告



大阪支部 京滋支部 合同総会
懇親会 盛大に開催される

10月25日(土)12時～2時半
ザ・リッツ・カールトン大阪にて
大阪支部と京滋支部合同の総会
懇親会が開催されました。

前半は式次第に則り、両支部の会計報告および役員の承認・選出が行われ、後半は両支部長の挨拶に続き、校友会坂本会長そして森田総長の挨拶へと進行了。会の後半では1分間のスピーチタイムや抽選会もあり、あっという間の懇親会でした。今回、20,000人の卒業生に案内が発送され130名の皆さんが参加されました。

以下、東京支部から参加された皆さんの感想をご紹介させていただきます。

昭和40年度 英米語学科卒業 村松武雄：

今回は大阪と滋賀の合同総会ということで東京支部の今後の参考にもなる

式辞が長い、歓談時間が足りないなど改善点はいろいろあるがやはり昔の仲間と会えるのは最高に楽しい！

利根川正則副支部長より

「人生は人に始まり人に終わる」ということを再認識できた貴重な機会

青木光子副支部長より

お洒落な会場での交流のひととき
素敵な懇親会でした

中山維夫委員

費用が気になるほど素敵な会場
若い卒業生の参加を増やすこと
東京支部と同じ課題

各地校友会参加は
刺激的で面白い！

と考え参加しました。東京支部でもいつも問題になりますが、最初の式辞が長くなってしまうことや歓談の時間が足りないこと、役員が各テーブルを回って交流を盛り上げる必要がある等はその支部にも共通する点だと感じました。会計報告は、書面にしてわたすのもいい方法かもしれません。リッツカールトンということで期待をしていたのですが、料理には少々ガッカリしました。しかし、こうして昔の仲間と会ってバカを言い合えるのは最高に楽しいひと時です。



昭和51年度 英米語学科卒業 利根川正則：

今回の集いではだれに会えるだろうか？ 新たな人との出遭い、古き良き仲間との再会、これほどわれわれの人生を豊かにそして鮮やかに彩ってくれるものはないと思います。

「人生とは人にはじまり人に終わるもの」ということを再認識させてくれた貴重な機会でした。

私はESSに半年ほど籍を置いていました。今回、当時4回生の棧敷雄二先輩との再会が果たせました。30年以上の時の風化が一瞬にして修復され、当時にタイムスリップさせてくれました。人生の出会いのダイナミズムを演出してくれる校友会、この集いに勝るものなしです。

祝 外大校友会！！

昭和52年度 英米語学科卒業 青木光子：

大阪・京滋支部合同総会・懇親会に行っていました。お洒落な会場でたくさんの卒業生と交流を深めることができ、とても楽しく意義のあるひとときを過ごしました。スタッフの方々の気迫と手作りの温かさが伝わってくる素敵な懇親会でした。どうもありがとうございました。

平成四年度 英米語学科卒業 中山維夫

リッツカールトンでの校友会。東京支部のお手伝いをさせていただいております私としては、つい、費用のことが気になるくらい素敵な会場でした。私は大食漢のせいか、料理がもう少し、量があれば最高かなと。あと、若い卒業生をいかに増やすか、これは東京支部とも同じ課題を感じました。料金設定を若い世代は安くしたり、工夫がいるのかもしれませんが。二人で来れば、通常1万円のところ、一人7500円になるとか。初めて関西の校友会に参加しましたが、各地の校友会に行くのは刺激的で面白いですね。ひょっとしたら、全国の校友会を巡るツアーも面白いかもです。

平成 8 年度スペイン語学科卒業

福島聡文さん

外大での生活で学んだこと

入学前は保守的だったが、ポジティブ思考の友人の影響大

自身の視野が広がり、人との繋がりに大きく成長

「お前成長したなー」

大学以前の友人の言葉

損得を考えずに人と関わっていき
たい

平成 19 年度英米語学科卒業

佐藤恵一さん

2008 年 4 月社会人に

当初、社会人になるという実感が
なかった

「もっと滑舌よく挨拶しろ！」

上司の第一声

社会人って厳しい…

外大生・横顔シリーズ



平成 8 年度 スペイン語学科卒業
福島 聡文さんのご紹介です

外大での生活で学んだ事

私は、兵庫県の三田という田舎町に育ったせいか、大学に入るまでは保守的な人間だったと思います。

しかし、キャンパス生活が始まると、北は北海道、南は、九州沖縄と、様々な人間が集まって来て、さらにみんな海外志向が強く、ポジティブな思考の友人が多かったです。そんな彼らに影響を受け、ガソリンスタンドや家庭教師のバイトでお金を貯めては、大好きなスペインへ旅行する…こんな学生生活でした。

そんな生活の中で、価値観や考え方の違う人間との接し方を学び、海外の異文化に触れることによって、自身の視野が広がりました。

人との繋がりが自分を大きく成長させたと感じましたし、度々、大学以前の友人からも言われます。

『お前、成長したなー！』 親みたいな感想でしょ(笑)
今改めて、『外大で良かった、そして感謝です！！』

その後、社会人となった現在、利害関係がある中での人的交流となりがちですが、それだけで付き合っていくのは勿体ない。

損得考えずに私は、今後もいろんな人と関わって、その中からいろいろ学ばせて頂きたいと思っています。

そして、これから社会に出てくる後輩達に少しでもアドバイスが出来るような良い先輩になりたいです。

外大生・横顔シリーズ



平成 19 年度 英米語学科卒業
佐藤恵一さんのご紹介です

2008 年 4 月、私は社会人になりました。当時の自分は、社会人になるということに実感が沸きませんでした。入社式の際も、社長の講話を聞いたり、全体写真を取ったりと大学の入学式と変わらないなと思っていました。

そして三ヶ月の新入社員研修を終え、現場配属された日に自分にとっての初めて上司と初対面しました。その上司の第一声が、「もっと滑舌よく挨拶しろ」という一言でした。元気良く挨拶しただけでは足りないのか。社会人って厳しい…と思ったことを覚えています。しかも初めて会った上司の一言

その上司の下、怒られる毎日

こんな細かい所まで指摘しなくて

も…？

異動、正直うれしかった

異動先メンバーのルーズさに

違和感

厳しかった上司に感謝

自分もこういう人間になりたい

メキシコ料理レストラン

La Casita オーナーシェフ

渡辺庸生さん

開業 5年 のころ、

日本テレビ 30周年特別番組

「世界料理大賞」の手伝いを依頼
される

メキシコ代表は、自分の修行店
師の来日

目がお叱りの言葉。正直、これからの社会人生活にすごく不安を感じた日でした。

その上司の下で、働き始めてから、電話の応対、メールのマナー、文書の書き方、飲み会の幹事の仕方などなど…怒られる毎日が続きました。上司に、一通メールを送るとお叱りメールが何故か二通返ってくるという日々でした。

学生時代では、こんなに人に怒られたことがなかったので、そんな細かい所まで指摘しなくてもいいんじゃない？と思いながらも、せっせと仕事をこなしていました。

そんなある日、自分が異動することになりました。やっとあの上司から離れられる！と心の中で喜びました。正直とても嬉しかったです。そして、新しい現場で働き始めると、周りのメンバーに、違和感を覚えました。

メールの書き方、マナー、ルールなど…そんなメールの書き方でいいの！？時間にルーズじゃない！？今までの環境とは、とてもとても違いました。

あの上司は、厳しかったけど、大事な物を守るために部下に厳しく指導してそれ以上に、部下に見本を見せるため自分に厳しく行動していたのだなと感じました。

先日、その上司に偶然会った時に、自分の感じた違和感を伝え自分に対して、厳しく接していただいたことを、お礼しました。その時、上司に「気付いてくれて、嬉しい」とおっしゃっていただき、自分もこういう人間になりたいと感じました。今では、初めての現場で、あの上司と働けて本当に良かったと素直に言えます。

外大生・横顔シリーズ



～ 開店当時の手作りレストラン～

メキシコ料理レストラン

La Casita オーナーシェフ

昭和 46年 イスパニア語学科中退
渡辺庸生さん

(昭和 23年 10月 7日神戸生れ)

連載 11回目です。

代官山に開業して5年も過ぎた初春の頃だった。日本テレビから連絡があり、開局30周年の記念特別番組「世界料理大賞」の手伝いを依頼されたのである。番組の要旨は、フランス、イタリア、スペイン、中国等、世界の主要14カ国の一流レストランのシェフ達を一同に集めてグランプリを競わせるもので、しかも、2時間生放送で進行させるという途方も無い企画であった。自分の役目はメキシコ担当のフードコーディネーター兼、通訳。日本で揃う食材と本国から持ち込まなければ無理なものや、調理器具、食器などの打ち合わせが進む中、嬉しい事実が判明した。私が修行した店が選出され、師と仰ぐ Sr. GABRIEL ESPINOSA が来日するというのだ。なんとという偶然だろう。勿論、彼は私がこの番組に携わっていることは知る由もない。

リハーサル調理施設を懇意の
新宿調理学校にお願いできた

世界トップレベルの仕事人
リハーサルでさえ、贅沢で壮観

赤坂プリンスからの生中継
大臣、大使、女優、料理評論家
テレビ番組の域を超越

26年経った今も感慨深い

再会を心待ちにして準備は進んでいった。有り難いことに当時、研修生を受け入れた縁で懇意にしていた新宿調理学校の師範にお願いをしたら、学内の調理施設をリハーサルに使わせてもらえることになった。何せ総勢 30 名余の世界のトップレベルの料理人がその腕を競う世界初の番組、学校側にとっても最高の宣伝材料になると了承された模様である。時は 1983 年 4 月、正に決戦の火蓋が切られようとしていた。

喜びの再会もそこそこにリハーサルに付き合った私は、目の当たりに見たプロの仕事人達の技に敬服していた。隣にはフランスから招かれたセルジュ・チヴォー氏の調理場所、その横は先代の湯木貞一氏率いる京都吉兆、まるで本番さながらの緊張感の中での調理実習。こんな贅沢な光景は壮観という言葉だけではとても表現できないものであった。明るく日、当時としてはまだ珍しい英語とのバイリンガルの生中継はさらに驚かされた。会場は赤坂プリンスホテルの大広間、来賓は外務大臣、農林大臣、文部大臣、日本駐在の各国大使夫妻、そして味の権威を誇るそれぞれの国の料理評論家、森英恵さんや池田満寿夫さん、日本の女優陣を配して席数は 200 席を超えていた。テレビ番組の域を超越した現場に居合わせた経験は、その後何度も自身を奮い立たせる糧となったのである。フランスの優勝で幕を閉じた後、師匠を代官山の店に招待した。束の間ではあったが料理を馳走し、お褒めの言葉もいただけた。日本にメキシコ料理を普及させる使命感がより芽生えた一時は、26 年経った今、ひときわ感慨深いものがある。



渡辺さんの著書が
京都外国語大学の図書館の
蔵書に加わりました。

次回へ続く ~ TO BE CONTINUED ~ お楽しみに !

海外便り「カリフォルニアの風」

昭和 38 年英米語学科卒業
鶴亀彰さん

祝祭の季節

ハロウィーン

例年より子供の数が少ないのは
豚インフルエンザのせい?



カリフォルニア在住の
昭和 38 年度英米語学科卒業の鶴亀彰さん
からのお便りです。

「祝祭の季節」

常春の気候が年中続くカリフォルニアもさすがに秋風の中に少し冷たさがまじります。ハロウィーンの祭りにサンクスギビングディ、そしてクリスマスと祝祭の季節を迎えます。

子供達が思い思いの仮装姿でキャンディーを求めて家々をノックして回るハロウィーンですが、今年は子供の数が例年より少なく感じました。豚インフルエンザのせいかもしれません。

四季の変化がはっきりしない

カリフォルニアも祝祭の季節は

気ぜわしくなる

リーマンショックからの世界恐慌

危機はまだ終わってはいない

問題は高い失業率

消費活動減少が雇用スランプを

招く

地球環境のためには

アメリカの質実剛健傾向はプラス

大量輸出傾向の日本はマイナス

ハロウィーンでの子供の笑顔

世界が不安のない心豊かな

祝祭の季節を迎えられるよう

祈りました。

日本のようなはっきりした四季の変化がないカリフォルニアですが、祝祭の季節が近づくと、大人達は何かと気ぜわしくなります。アメリカ中に広く散らばって住む家族が年に二回一緒に集まるための準備も必要です。贈り合うギフト購入予算の算段や買い物計画も立てなければなりません。ましてや今年は経済不況の中です。一工夫が必要のようです。

昨年のリーマンショックで始まった世界恐慌への不安は世界各国政府の協調金融対策で何とか収まったようで、最近のアメリカのGNPの伸びは予想より高いものでした。株価も以前のレベルに戻りつつあります。しかしその一方、CITグループという百年以上続いた大手銀行持ち株会社が倒産し、会社更生法を申請しました。危機はまだ完全には終わっていないようです。

問題は失業率の高さです。いくら景気は上昇し始めたものの、雇用はなかなか伸びません。企業は新規雇用に慎重なようです。それだけに一般庶民の間にも不安の思いは消えず、生活防衛のために財布の紐は堅くなっています。そしてそのことが消費活動を減少させ、企業の収益を悪化させ、また雇用スランプを招いています。

例年11月のサンクスギビングディから12月のクリスマスまでの祝祭の季節はアメリカでもっとも消費活動が活発化する時期と言われています。業種によっては年間売り上げの三分の一から半分にあたる売り上げがこの一ヶ月間に達成されるそうです。今年はどうでしょうか。祝祭の季節の小売業の成績が来年一年の景気を占うでしょう。

しかし物に溢れ、消費は良いことだとばかりに借金してでも物を買っていたアメリカ人の傾向が収まることは地球環境のためにはプラスです。質実剛健に暮らし、物ではなく人間の思いやりや助け合いなど心の豊かさが増えるならば良きことではあります。同時にそれはアメリカの大量消費を支えるべく大量輸出していた日本に取ってはマイナス材料ではあります。

地球環境にプラスの製品を創り、輸出すると共に、今まではなかったような楽しく快適な製品を生み出すよう日本の企業には努力が求められているようです。ハロウィーンに集った変わらない無邪気で明るい子供達の笑顔を見ながら、アメリカが、日本が、世界が、現在の経済不況を乗り越えて、不安のない心豊かな祝祭の季節を迎えられるようにと祈りました。

祝祭の季節 ハロウィーン



海外便り「フランス編」



夢の実現のためにフランスで
がんばっていらっしやいます
平成 12 年度フランス語学科卒業
寺尾恵さんからの便りです。

浮世絵、食後のお酒

2ヶ月程前に販売業に転職し一週間のうち5日はパリで過ごす日々を送っています。日本からの旅行の方向人もと話す機会が増えました。

モンサンミッシェルに行ってきました～、とかベルサイユ綺麗ですよ～とか色々おっしゃいますが実は私行ったことないんです！！転職して休みも週に2日いただけるようになったのでそろそろ...と思いながらアパート探しにほとんどの時間を割いているのでまだまだもう少し行けそうにありませんが...

お店には各国からのお客様がいらっしやいます。私は日本で30年近く生活したので日本の事はよく知っている“つもり”ですがよその国の人(特に私が話すのはフランスの人が多いです)は意外と分かっていないようです。

寿司が有名なので(もっともフランスでお寿司屋さんには中国系の方が経営している事が多いようで私の知っている寿司とは一味もふた味も違ったものが味わえますが...)ほかのお料理も...と思うとよほどの親日家の人しか知らず、時々中国料理との違いを尋ねられるとどこから説明を始めるか、うなってしまうます。

ところでフランスで通じる日本語がいくつかあります。
たとえば 酒、折り紙、布団。

酒はだいが前から通じる日本語の一つですが、必ずしも日本酒ではないので注意が必要。中国料理屋さんにて食後酒として火のつくような強いお

平成 12年フランス語学科卒業

寺尾恵さん

浮世絵、食後のお酒

転職、週 5 日パリで過ごす毎日

モンサンミッシェル、ベルサイユ...

行く時間はありません

フランス人は意外に日本を知らない

い

お寿司の味も違ったもの

フランスで通じる日本語

「酒」と言っても日本酒ではない

「折り紙」世界的に有名

「布団」と言っても、折りたためる
薄いマットレスのこと

「浮世絵」北斎、歌麿ではなく、
インドのカーマーストラと同じもの
があるという意表をつく言葉

日本は神秘的、エキゾチックと
いう意味で興味をもたれている

昭和 38 年英米語学科卒業
六島祥伍さん

サラリーマン生活を終え、早 8 年

突然のガン、余命 1 年の宣告
治療の甲斐あり一命を取り留め、
ボランティア活動に挑戦

酒をお猪口に入れてサービスしているので有名なようです。(ちなみにこのお猪口、仕掛けがあって、液体の入っているうちは屈折作用で底の写真が見えるようになっています。大抵目を覆うような大胆な女性または男性の写真。飲んでしまうと見れませんが、残念と思うか、よかったと思うか)

折り紙はむしろ世界的に有名ですね。

布団(フutonと発音)は折りたためる薄いマットレスのことをこう呼んでいるみたいです。きっとどこかの家具屋さんが日本流行にのって売り出したのでしょう。

こう見てみると、通じるとは言え必ずしも同じものとは限らないようです。

そういえば、先日フランス人と浮世絵の話をしました。なるほどゴッホやユトリロなど有名な画家の中にもこの影響を受けた人がいますしね、北斎、歌麿、広重は時々展覧会も開催されているようですし、知っている人がいるのもまったく不思議ではない...とこのあたりの話かなと早合点していたら、日本にもインドのカーマーストラ(性生活について事細かく書かれている書物のようです)のようなものがあるんだよね～と切り出されておどろいた。その存在、知ってはいたけれど日本でもそんなに有名ではないと思っていたので意表をつかれました。

まだまだ日本の事は把握されていないようで神秘的、エキゾチックなんていって、興味は持っている方が多いようですけどね...

まずは自分がよく知らないと、と日々思います。さてさて明日はどんな発見があるのか...

*** ガンバレ、外大卒業生！ ***

京都外大校友会メンバー紹介



今回の京都外大校友会の
メンバーは
昭和38年度英米語学科卒業
書記 六島 祥伍さんです。

営業畑一筋のサラリーマン生活を終え、早、8年
が過ぎました。退職と同時に環境関連の会社を
設立し順調に推移しました。

二年半が過ぎた頃、突然、悪性胸膜中皮腫というガンに冒され余命一年の
宣告を受けました。会社は義兄に任せ治療に専念しました。再発は有りま
したが、治療の甲斐あって一命を取り留めました。医者も不思議がっていま
す。

儲けものの人生、何か人の為になりたいと色々なボランティア活動に挑
戦しています。大阪府が募集した外国人サポーターの研修を受け資格も取

校友会書記、充実した毎日

校友会に対するご理解ご協力を
お願いいたします！

事務局

103-0024

東京都中央区日本橋小舟町
2-9 カーサ日本橋ビル 7 階
(株)グローバルメディア内

電話

03-5623-6550

FAX

03-5501-9031

電子メール

tonegawa@gm-group2.net

企画・編集： 森田 順子

発行責任者： 本山 裕彦

り、会社 OB 会の副会長を引き受け、昨年4月からは京都外国語大学校友会の書記の委嘱を受けました。忙しい毎日ですが充実した日々を送っています。趣味はゴルフとお酒で色々な仲間と気をつかわずガヤガヤやっています。

今後も京都外大、校友会、後輩の為、全力投球で楽しくやってゆく決意です。皆様方の身近な情報を校友会の方へお願いします。校友会に対するご理解、ご協力をお願いします。

***** 活動メンバー募集中 *****

====事務局便り====
人と人の繋がり大切なものです。生涯の財産になります。ニュースレターにご登場の皆様も口をそろえて、そう、おっしゃいます。外大校友会は、人と人の繋がり成り立っているのです。ニュースレターは全力でそのお手伝いをしてゆきたいと考えています。

今後も現役学生と卒業生、また卒業生同士をつなぐ媒体となるよう、できるだけ多くの卒業生の横顔を引き続きご紹介していきたいと思えます。

皆様の更なるご協力をよろしくお願いいたします。

皆様の周りで活躍している卒業生、自薦・他薦を問いませんので、

当事務局宛お知らせいただければ幸いです。

連絡先は >>> tonegawa@gm-group2.net

====